

## 令和2年度 第3回赤穂海浜公園管理運営協議会 議事録

日 時：令和3年3月10日（水）14:00～16:00  
場 所：赤穂市民会館 大会議室  
出席者：別添 出席者名簿参照  
配布資料：資料1 赤穂海浜公園管理運営協議会開催要綱  
資料2 魅力アップ計画アクションプランと今後の検討課題  
資料3 第2回協議会までの意見及びその対応について  
資料4 第2回協議会で提案した広報の実施状況と今後の対応  
資料5 イベント募集の問い合わせ及び応募状況

### 1 開 会／事務局

開会挨拶 光都土木事務所長

この協議会は、昨年3月13日に魅力アップ計画のアクションプランの多様な主体との連携の仕組みづくりについて、検討するということを目的に立ち上げられた協議会である。その後9月28日に第2回の協議会を開催し、様々な主体に様々な活用をしてもらおうと、利用を募集することを9月29日に記者発表し、10月1日からチラシを作って募集を始めた。春からのコロナ関係の自粛が一旦開けたところであった。その1ヶ月後の11月半ばには第3波が訪れたことで2回目の緊急事態宣言の発令もあり、皆さんが出歩いているいろいろな活動する環境になっていない状況が続いた。本日、募集後のいろいろな動きを説明し、これからのことを考えていただくと考えており、動きとしては低調な中であるが、様々な方策をご議論いただければと思っている。

一方、施設整備については芝の状態が良くなく、改善中である。また、未就園児の遊び場やわんぱく広場の老朽化した遊具の更新も、工事を発注している。今後コロナがうまく終息し、公園での活動が活発に行われるようになれば、協議会で話したような様々な内容をどんどん発展させ、うまく回していきたいと思っている。どうぞよろしくお願いいたします。

会長挨拶

コロナ禍で大変な中、こういった状況が1年続いた後、色々な公園でコロナの中でも利用が増えたという報告が、当たり前のように上がってきている。これまで以上に市民の方に愛されて、こういった中でも幸せな暮らしを送るための場所、というふうな役割がはっきりしてきたと思う。こういった状況なのでたくさん利用されたり、事業がどんどん打たれたりということはできないが、コロナ終息後に新たに考えるのではなく、これまで私たちがやってきたオープンに公園を使っていこう、こんな使い方もできるという取組は必ず、コロナが収まってからいろんなニーズに対応できると思うので、その日のために力を蓄え、準備をしておくということで活発にご議論、ご意見いただければと思うので、よろしくお願いいたします。

### 2 赤穂海浜公園管理運営協議会について／事務局

#### (1) 管理運営協議会開催要綱の変更／事務局

- ・資料1を説明

#### (2) 第2回協議会での意見等／事務局

- ・第2回協議会議事録の公表を予定

### 3 議事／事務局

#### (1) 第2回協議会までの意見及びその対応について

・事務局より資料3を説明

#### 意見交換／各委員からの主な意見と事務局の回答

委員

イベント募集のチラシはどんなまき方をするか。

事務局

公園は当然のことながら、赤穂市観光センターに置いている。それ以外にも赤穂市が管理している観光拠点御崎レストハウス、教育委員会の民俗資料館、美術工芸館、文化会館、歴史博物館等の市の観光施設にも置いている。それ以外のところも配置計画を考えているところは前回報告したが、配置できてないところがある。

委員

資料3-2の地図は実施不可というのが目立っていて良くない。文字が地図の上に載っていると見づらい。これは地図部分の外側に枠を設け、番号を打って不可と書いた方がよい。

会長

タイトルの字が赤色で「イベント実施可能エリア」と書いているが、地図の中の赤色のところを見ると不可と書いている。

委員

文字の色も悪い。可能エリアの部分を表現する場合、赤色は使わない。

会長

少し見えにくいグレー系統の色にすると良い。また、矢印も多い。

委員

情報を盛りすぎている。不可のエリアを囲まず、可能なエリアを囲って実施可能エリアを示す方が良い。また、インフラの電源等を示す地図も電気、水道など1個のテーマごとに、地図を作って出せるようにした方が見やすい。

委員

3-1-①に関して、「行為許可申請を提出し」と書いているが、普通の人には「行為許可申請」が分からない。「申請し承認されればできること」だけでも良いと思う。この辺はわかりやすい伝え方のためにお金をかける必要がある部分で、今年度はこれで仕方ないが、外のデザイナーや広告会社等をお願いするなど、伝え方のプロの手を入れたほうが良い。

事務局

予算が付けば対応する。

委員

予算をとっていくようにしないとイケない。

会長

他の立場での発言かもしれないが、県立公園の広報はほぼ全公園弱い。Instagramやホームページ等を使って、全然違うものをハッシュタグでくっつけるという一番効果がある使い方をしていない。例えば、赤穂海浜公園かきまつりとか何かがかくつくことで、今まで来なかった人に公園に興味持ってもらおうという広報の新しい取り組みがあったりするが、それが出来ていないので、本気でやる方が良いと思う。

委員

最も外部の手を入れるべきところが広報だと思う。公的なものでは難しい。伝え

方はそれぐらい大事である。

**事務局**

デザインは別として、先程のタイトル等文言については直営でもできるので対応する。

**会長**

できることを前に出すような示し方になるようお願いする。

**委員**

女性職員がいるなら、そういう方達に見てもらいたいことも必要である。イベントがやりたい方や若い女性の方など、SNSを見ている方に見てもらいたいのが一番良い。見ってもらうことで文言や見せ方も変わるはずである。

**委員**

前回のSNSは向いている人を担当に宛がってはどうかという意見は今その中にいる人の中で、一番向いている人を宛がうべきという意見である。

**事務局**

現在の担当は普段からSNS等を使っている方をお願いしている。

**会長**

4の⑨YouTubeに広告費を払って広報するのは有効的と書いているが、YouTubeというのは、何か動画を見たら、それに関連がある動画が出てくる。例えば牡蠣がおいしい店の動画見た時に、勝手に赤穂海浜公園のかきまつりの動画が次の動画に出てくる。そのため、面白いコンテンツ動画をアップするだけでも広告になることもある。

## (2) 広報、情報発信の強化

### ①第2回協議会で提案した広報の実施状況と今後の課題 資料4

・事務局説明

#### 意見交換／各委員からの主な意見と事務局の回答

**会長**

ここには広場がいっぱいあるため、すべての広場をしっかりと管理してイベントのために置いておくのではなくて、一つの広場は草が伸び放題の状態にして、バッタランドにしてみる。小管理し少し自然度を上げたら、いくらでもでもバッタが出てくる。低い草っ原にすれば、小さい子もバッタが捕れる場所になる。子どもたちが自然にふれあう機会が増えれば、楽しみながら自然に親しんで、それが守ろうという心にも繋がり良い循環になる。

**委員**

環境学習の場として利用可能な場所があれば教えてほしいということだが、管理者である園芸公園協会の方でも、環境教育イベントとかこれまでにやっていないか。

**事務局**

人と自然の博物館の昆虫大捜査線、海洋科学館の星空を観る会、自主イベント的な野鳥観察などは実施している。それ以外でもご提案いただいた中で、できるものがあれば実施していく。

**委員**

赤湖・白湖では大量の冬鳥が来る。それを岸辺のベンチに座って望遠鏡や双眼鏡で見ることができる。場所だけではなく、この季節にこんなことができるっていうのをきっちりと組み立て、年間を通して、この時期にここに行けばこれができる

いうことを記載した自然体験カレンダーの様なものを作っていければ良い。地域の自然をよく分かっている方と一緒に海浜公園を見ていくと、いくらでも情報が出てくる。環境学習は、生き物の名前を知るだけではなく、野生の生物の生き様や、その環境をどんなふうにするのかというのを見るなど、もっと幅広い活用ができる。

**会長**

園芸公園協会もフェノロジーカレンダー作っていなかったか。春はこの花で夏はこの花等、全部暦のようになっているのが最近流行っており、様々な公園で作っている。それで見に来る目的ができ、そのカレンダーを見れば、この時期にこの虫が捕れ、こんな花があるなどが分かる。

**委員**

季節毎に違うことがあれば、何回も来る理由にもなる。

**事務局**

花マップみたいなものを作っていたが、更新ができていない。

**委員**

更新というより、蓄積すれば良い。

**会長**

レジャー・アウトドア系の企業とか団体の方は、基本的に自然が大好きだから、企業も最近は社会貢献として自然を守る活動もしており、清掃活動なども全部支援していたりする。そういったアウトドアメーカーの方に使い方の話を聞いてみるのも良い。勉強よりも、遊びながらに近いような使い方は良い。

**会長**

赤穂海浜公園なので海が公園区域外でも、海の環境を活かしていくべきである。子ども釣り大会とか神戸の方でよくやっているが、そういう方は自然のことで、レジャーを通して親しむことはあるかもしれない。それはすぐにはできないけれども、長い目で見て考えても良い。

**事務局**

公園の南側にある唐船海岸も含めてPRしていければと思う。

**会長**

学校、幼稚園・保育園、各種老人会、婦人会など団体は違うタイプで来る。つい一般の方にいっぱい来てもらおうと思って、イベントをやったりするが、平日は団体利用で遊びに来ようというのがあって、やることがなければ来ない。遠足で来た団体の時にはいつもと同じように遊具で遊ぶのではなくて、虫を捕ることや博物館に寄って勉強すること等、お弁当を食べるのを挟んで半日ちゃんと入れるような魅力があれば、団体は来る。その魅力はアピールしないとイケない。そうしなければ、科学館に来ただけで帰るようなことになる。

**委員**

アピールすることと公園管理者の中にインタープリターやファシリテーターという人が必要である。公園の資源でこんなものがある、こういうことができるというアピールだけでは足りず、それをきちんと伝えるための人がいる。どうしても人が少ない公園だと難しくなるが、そういう人を見つけてくる。

**委員**

どんな目的で来たのか、初めて来たのか、何回も来ているのかなどのアンケートをとって、答えてもらったら、特典として塩の小袋でもプレゼントする。スマホでできるアンケートでも良い。

**会長**

加えて、来た人だけでなく、来ない人にどう来てもらうかということも非常に大

切である。広報先で関係なさそうなところにもチラシをまいているので、そういったところにも何があったら公園に来たいと思うか等のアンケートをお願いする。普段公園ではなく、どこに行っているか、何をしているかということも聞くと、いろんな分析ができる。

**委員**

こんなものがあればもっと来る頻度高まる、こんなものを準備してほしい等、そんな声も取っておく。

**委員**

⑭のインセンティブなしでSNSにあげてもらう方法に関して、イベンターもその参加者に対してお願いしたい部分があるはずなので、インセンティブは公園が用意しなくても、イベンターの方できっと用意している。公園からは企画者に対して、参加者の人にSNSにイベントのことをあげてもらうような周知をするよう伝えておけばそれで良い。大事なものはきちんとエゴサーチし、公園のアカウントがそれをきちんとリツイートしたり、リプライを投げかけ、感謝の言葉をSNSで伝えることである。そうしたら、その人のフォロワーは海浜公園のアカウントを見る。

**委員**

夕日を撮ってアップし、赤穂海浜公園のハッシュタグをつけていたら、海浜公園のトップページにあげる。その仕組みにしたら、自分の写真を皆に見てもらえる。

**事務局**

今は、インスタグラムで決めたテーマに沿った海浜公園の写真を撮っていただき、インスタグラムにあげた写真を応募する旨を管理事務所に言ってもらい、応募の中で優秀賞の方に景品を差し上げる。

**委員**

写真を撮る人は自分の写真を見てもらいたいからそれをSNSにあげる。それを職員の方に審査してもらい、景品をもらうというのは必要ない。毎月何かテーマを決め、ハッシュタグをつけて募集していれば、写真家の中でここに出したら良いという口コミが広がる。ホームページの閲覧も上がり、写真を撮りに来る人も増える。

**委員**

あげている写真をホームページに取り込んで、並べる仕組みを作るのは大変だが、ツイッターなら写真をあげている人がたくさんいるのでそれをリツイートするのは簡単である。それが写真をアップロードしている人に対して無料のインセンティブになる。もう一手間加えるなら、赤穂海浜公園の映える写真をトゥギャッターというのにひとまとめにしてアップする。そこに、海浜公園のリンクを貼っておけば、それを見に行く人も増え、あげた人が他の人の写真も見るので投稿している人同士のつながりができる。ネットワークが自然と発生している状況がSNSの使い方である。情報を発信するだけでなく、絡むというのが大事になる。

**委員**

リツイートはハッシュタグで赤穂海浜公園で検索すると、それに関連する投稿が出てくるのでそれを押すだけで良い。アップするより簡単で、それをするだけで簡単に情報が広がっていく。その仕組みを講師呼んで職員の方が勉強した方が良い。

### (3) 地域や企業・団体、大学等との連携強化

#### ① イベント募集の問い合わせ及び応募状況 資料5

・事務局説明

#### 意見交換／各委員からの主な意見と事務局の回答

## 会長

応募等が4件というのはコロナだから、仕方がない部分大きい。だが、その中で4件もあったということと、そのうち2件はコロナでも何とか地元の中止になったかきまつりの代わりになるようなものを何かしたいということで、ここを選んでいただいたというのは成果である。④の音楽活動はチラシで、今までの公園利用者と違う層の応募に繋がっている。しかも、小規模な自主イベントであったということも成果である。

①のバイクの展示会の備考で「近くにコンビニがないという理由で申請まで至らず」に関して、大きなイベントの場合にはいろんなイベント会社が飲食の関係者もまとめて取り扱っているが、イベント会社がとりまとめるイベント以外のイベントも今後は増えてくる。飲食のツテが全くない方がイベントを実施する場合、イベントカレンダーを見て、自治会の飲食関係者が入ったり、近くの商店の方がキッチンカー出すようになることが理想である。やりたい人がくっつくようになれば、イベントとしてもワンセットそろっていて、利用者の方も来やすいイベントになる。

## 委員

求めているものが飲み物だけならその日公園で少し多い目に仕入とくようにすれば良い。あるいは、近所のお店に頼んで出店してもらうようなことはできたかもしれない。コンビニはないが、その日公園で飲み物が提供できるお店を出店できる旨をイベント企画者に伝えれば、実施の可能性も高まる。

## 委員

近くにコンビニがあるのではないかな。

## 事務局

近くにあるが、歩くと距離がある。公園内にバイクを駐めてそこを拠点に歩いて行けるようなところで飲食できる環境を確保しなかったのだと思う。

## 委員

ダメだったらダメの理由を明確に確認しておくべきである。誰かコーディネーターする人がいる。

## 事務局

そこまで深くは聞けていない。申込書を出してもらい、話を進めている段階なら当然聞けたが、今回の場合、電話で簡単に概要を聞いて、その会話の中で実施が難しいということになった。

## 会長

例えば100人程度のイベントでも飲み物のお店を出店した事例が紹介できれば、今後実施に繋がるかもしれないし、地元の方に商売のお話がいくということは悪い話ではないと思う。

## 事務局

一番最初の問い合わせは連絡先も分からない。問い合わせされた方に何を求めているのか等を聞いてみるのは今後のために重要な意見となる。今は何の繋がりもないが、今後、例えば飲食店やキッチンカーが何台か来てくれるところと繋がりができれば、そんな話になれば段取りしてもらうことも可能となる。その辺は一気にできないので、少しずつこういうことを積み重ね、ネットワークを作ることができれば、どんどん広がってくる。

## 委員

音楽活動のイベントというのはどういうものなのか。

## 事務局

自主イベントで自分たちで楽しみたいというのが中心である。そういう活動され

ていた8人で、お友達とか見に来られる方は別だと思う。

**委員**

音楽活動のイベントなど開催される方向でやっているなら、しっかりとSNSでちゃんとフォローする。

**委員**

少人数の音楽イベント、3000人のロハスイベントや8人のイベントでもやれるということをアピールしていくべきである。

**委員**

イベントはもっとプレスリリースをして、神戸新聞、サンテレビや県の広報等そういうツテがあれば使うべきである。県のホームページで記者発表を出していてもわざわざ見ない。きちんとプレスを出しているか。

**事務局**

公園で実施しているイベントは記者発表、投げ込みをしているので、記者の方が興味を持ってくれたら書いてもらえる。

**委員**

ただプレスを出すだけでは興味を持たないので、プレスを出すにあたって、行ってみようや主催してみようと思うようなかたちのプレスを出す。

**事務局**

定期的なイベントなのでなかなか書いてくれないが、変わったイベントなら食いついてくれると思う。

**委員**

イベントのプレスを出すことはイベント募集をしているということのプレスにもなる。海浜公園ではこんなことでできて、借りられるというのもタダで広報してもらえる。だから、サンテレビの県のページとかあったら、そこに掘り込んでもらおうとか、どんなコネを使ってでも広報してもらおうぐらいでないと難しい。

**事務局**

イベント募集をしていますというのも投げ込んでいるが、そこは事務局のPRが下手なのか、相手も食いついてくれる場合と食いついてくれない場合がある。そこら辺は持ち合わせているテクニックは使っているつもりである。面白いイベントが乗っかってきたら、事前に出せる物はプレスをするし、結果も出しても良いと思う。

**委員**

変わったイベントがあったら売込む方が良い。

**事務局**

ロハスは最初のうち非常に珍しいから話題になっていたが、今はあちこちで何回かやっているのではなかなか扱ってもらえない。

**委員**

公園を少ない人数でも借切ってイベントができるように今年からPRしていて、その第1号こんなイベントがこのイベントというようなことをポイントにしたらプレスリリースの出し方になる。淡々とこんなイベントが今度あるではなく、公園を借切って使える、こんなことをやる人も出てきたというようなこと等に力点を置いたプレスリリースする。こっちが知って欲しい部分と新聞記者が書きやすいことを考えてプレスリリースすることが必要である。一番書いてもらえるのはプレスリリースをコピペしたら記事になるような書き方にすることである。

**委員**

こちら側で全部書いて写真も載せておく。そうすれば、記事を書く手間も減り、記者の手間もかからないので載せてもらいやすい。

**赤穂市**

赤穂市にも記者クラブがあるので、ぜひ広報担当の方を使ってもらってそこに投げ込んでいただいたら良い。県と重複する部分はあると思うが、新聞、NHK、サンテレビで流れるようになっていっているので効果的だと思う。他にも公式のLINEとFacebookがあり広報担当に情報さえ提供すれば、アップすることもできる。

**委員**

海浜公園を魅力アップするために検討しているこの会議そのものを発信していくことも大事である。

**会長**

それはいろんなことを勝手にやってもいいということを試行して、いつかイベントのこんなことをしたいという人と地元のお店とどこかの食べ物屋さんがコラボして、何か一緒にできたという、今までになかった事例を通して発信していければ良い。

**委員**

過去いろんな団体やサークルが海浜公園使っていると思うが、そういう過去の利用例も載せると、あれぐらいの規模でもいける、8人の音楽会でも貸してくれるというイメージが湧くので良い。

**会長**

ぜひとも、実績を次の広報へとつなげて良い循環を。  
他になければ、これで議題は全て終わったので事務局に進行をお返しする。

**4 その他 / 事務局**

**(1) 施設整備実施について / 事務局**

**(2) 次回開催について / 事務局**

- ・来年度は8月の開催予定で7月に日程調整を行う

令和3年3月10日(水)に開催された令和2年度 第3回赤穂海浜公園管理運営協議会議事録については、上記の通りであると認め署名する。

議事録署名人

会 長

赤嶋 宗樹

委 員

亀井 義明



(別添)

## 第3回赤穂海浜公園管理運営協議会 出席者名簿

令和3年3月10日(水)

赤穂市民会館 大会議室

区分	所属等	氏名	出欠
学識者	兵庫県立大学 教授 (人と自然の博物館)	赤澤 宏樹	出席
	兵庫県立大学 准教授 (淡路景観園芸学校)	澤田 佳宏	出席
	関西福祉大学 准教授	山本 浩二	欠席
地域団体	御崎地区連合自治会 会長	亀井 義明	出席
	尾崎地区連合自治会 会長	目木 敏明	欠席
	地域活動連絡協議会 会長	岩崎 由美子	出席
	赤穂観光協会 事務局長	梅本 邦夫	出席
	赤穂市漁業協同組合 参事	平田 一典	出席
指定管理者	(公財)兵庫県園芸・公園 協会 総務部長	五明田 禎久	出席
行政機関 (赤穂市)	観光監	西浦 万次	代理 産業振興部 観光課長 寺下 好穂
	教育委員会 教育次長	長坂 幸則	出席
行政機関 (兵庫県)	県土整備部まちづくり局 公園緑地課 課長	戸田 克稔	代理 公園緑地課 主幹 小林 一磨
	西播磨県民局光都土木事務所 所長	八木下 徹	出席

## 事務局

指定管理者	赤穂海浜公園管理事務所 所長	高田 直隆	
	赤穂海浜公園管理事務所 参事	荻野 直哉	
	赤穂海浜公園管理事務所 参事	圓見 文明	
	赤穂海浜公園管理事務所 参事	尼崎 佳三	
	赤穂海浜公園管理事務所 課長	小坂 真也	
西播磨県民局 光都土木事務 所	管理課 課長	小原 孝彦	
	港湾課 課長	柴崎 和人	
	港湾課 課長補佐	大谷 朝俊	
	港湾課 職員	塩濱 裕也	